

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600526
法人名	医療法人 ひまわり会
事業所名	グループホーム光 ユニット名 1階
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原1121
自己評価作成日	平成25年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年12月13日	評価結果確定日	平成26年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は質の高い認知症ケアが提供できるように職員の質の向上に積極的に取り組んでいます。外部の研修や施設内の勉強会を通じて職員の見識を高め技術向上につながるよう努めています。認知症ケアはオレンジプラン(厚労省試案)にもあるように従来の「感と経験」のケアではなく正確な知識と技術を基礎に置いたケアの提供が望まれています。認知症ケアのこれまでの実績を踏まえより地域社会に貢献できる施設づくりを目指しています。町内会活動、子供会活動への協力、障害者施設との交流、介護相談活動などに取り組み地域連携に取り組んでいます。わたくしたちは入所者様が社会から孤立することなく楽しく生活できるように施設がその役割を担う場になるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接して母体となる医療機関が位置し、医療ニーズへの対応や災害対策、運営推進会議の中で理学療法士や管理栄養士による情報発信を行う等、日常的に連携を図っている。今年度は、業務改善や内外の研修体制の確立等、事業所全体の活性化と質の向上に向けた積極的な取り組みが行われている事が確認できる。法人としても、時間や費用の面でのサポートを行い、モチベーションの確保や働きやすい環境作りに結び付けている。また、以前からの家庭的な雰囲気大切にしながら、生活習慣やこだわりの継続に向けた個別支援や、自己決定の場面作り等、本人本位に基づく「暮らし」の継続を意識している。専門職としての研鑽を積み、支援の根拠となる情報収集やチームケアの実践に向けて、多面的なアプローチを重ねており、今後も地域の福祉拠点としての活動展開とともに、個別支援の追求が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について勉強会を年1回行い、施設内に掲示いつもお互いに啓発しあっている。	月例勉強会での確認や、業務日誌には理念が記載されたしおりが用いられる等、理念を意識した日々の関わりとなるよう取り組んでいる。今後は、現状に即した理念の再構築も視野に入れており、理念の共有の重要性を認識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃行事や子供会で行われる廃品回収などに積極的に参加している。春の神社のお祭りや年末の餅つきなどには入所者さんとともに参加しています。	町内会に加入し、地域活動や地域行事に参加している。また、地域の祭りの際には獅子の巡行を受け、入居者の方々と共に見学している。日常の中では、近隣の方より野菜が届けられたり、柿を頂いた際には皆で干し柿作りも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に開催する運営推進会議では毎回高齢者の栄養や転倒予防などについてミニ講習を行っています。そこで教材として作成したパンフレットを区長さんを通じて地域の方のお役に立てるように配布しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様・ご家族様に満足度調査を行っています。その結果をまとめてリーフレットにしご家族や推進会議メンバーに配布し、ご意見をいただきサービスの質の向上に努めています。	運営推進会議には、入居者、家族、区長、隣組組長、公民館館長、地域包括支援センター職員の出席を得て、定期開催されており、町役場職員や消防署長の参加する機会もある。管理栄養士や理学療法士によるミニ講習では、低栄養や生活リハビリ（転倒防止）に関する情報発信も行われており、参加メンバーや内容の充実がうかがえる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず地域包括支援センターにご参加頂いています。事業所運営報告など定期的に行いアドバイスをいただくようにしています。	運営推進会議には、地域包括センター職員や公民館館長の参加を得ており、町役場担当者の出席を得る機会もある。今後は、連絡協議会の発足も予定されており、行政や事業所間の連携充実が期待されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の研修計画に「権利擁護と虐待予防」を計画し常に実行するすように努めている。職員間でのモラル向上になるようにしています。施設や抑制につながるベット柵の廃止に努めています	様々な視点から職員の意識や理解を深める取り組みが行われており、リスク管理のみを優先するのではなく、個別の「暮らし」の優先を大切にしている。居室環境の検討や整備、外出の機会の拡大、また、見えない拘束への意識を高めながら、より良いケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待と権利擁護」を研修計画には必ず入れている。認知症ケアの在り方について外部・内部を問わず常に習得する機会を持ち認知症高齢者の権利擁護に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度について勉強会を持ち理解に努めています。必要に応じて入所者様に「成年後見制度」について説明をし助言をしています。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について研修の機会を確保し、権利擁護制度の理念や意義について周知を図っている。現在、制度を活用している方はいないが、必要性について関係機関との協議を予定している事例がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に本人・ご家族さまに面談し介護保険制度や施設の運営・重要事項説明書や契約書などについて十分理解していただけるように説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・要望などのご意見箱を設置し運営推進会議など機会あるごとに反映するように努めています。運営推進会議記録をホールカウンターに常時掲示し閲覧いただけるようにしています	家族が意見を言い難いことを理解し、意見や要望の表出の機会を重要視している。運営推進会議への家族の出席も多く、議事録を閲覧可能としている。また、満足度調査を実施し、内容を開示している。家族会の発足についても、信頼関係づくりを行いながら、働きかけを行っていく意向である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月月例報告を作成し、その内容を勉強会で説明している。その都度職員の意見提案を聞きながら、共同してより良い職場環境が作れるようにしています。	現在、業務内容の改善に向けて、積極的に取り組んでいる。トップダウンとボトムアップのバランスを図りながら、質の向上や風通しのよい環境作りに努めている。リーダー及びサブリーダーそれぞれが、施設長との話し合いの場を持ち、組織力の強化や職員個々の意見の吸い上げに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を作成し年2回職員各自が自己の振り返りができるように努めている。人事考課に基づき各人と管理者が面談しより高いケアワーカーとして成長できるように十分な話し合いをする機関を持っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に当たっては性別・年齢にはこだわらず人柄優先で個人のやる気や認知症ケアへの理解を大切にしている	ハローワークを通じて、人柄や資格取得への意欲のある職員を求め、年齢や性別による排除は行っていない。より質の高いケアの提供に向けて、出勤扱いとなる外部研修参加の機会は多く、内部での勉強会参加には手当が支給される等、個々のレベルアップを積極的にサポートしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権擁護などの権利擁護については常に学習の機会を持つように努めている。また入所者様に対しては言葉使いをはじめ常に尊厳を持った接遇に十分気を付けている。	年間研修計画の中に位置付け、認知症の正しい理解や権利擁護、高齢者虐待防止、倫理規定の読み合わせ等、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協などが実施する研修に職員が参加できる機会を積極的に取り入れている。その際研修は出勤とみなし、負担軽減に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターのアドバイスをいただきながらネットワークづくりに今後は取り組んでいきたい		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様・ご家族様に面談しご自宅での生活状況など情報を得るようにしている。サービス担当者会議を開催しご家族の要望が出しやすい環境をつくっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込み書を記載していただく時にゆっくりと時間をとりご家族と話し合うように努めています。ご本人さまへのご家族の想いを傾聴するように心がけています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントやケアプランに本人、ご家族の要望を記載しその実現に心掛けています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に共同生活を行う関係として相互扶助に努めている。食器拭きや洗濯物たたみなど家事をともに行うことで信頼関係を築けるようしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて本人様状態を説明しています。施設内行事への参加をいただきながらご家族と話し合える関係づくりに努めています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら本人が行きつけの理・美容店を利用したり、面会に来ていただくなど入所前の生活関係が維持できるように支援している。	地域のこだわりの醤油を買いに同行したり、図書館の利用を支援している。男性の方は、地域の理髪店に出かけ髭剃りをしてもらうことで、これまでの暮らし同様、リラックスした時間を過ごしている。地域の理・美容店を利用する際には、送迎のみ支援している方もおり、猫を飼っていた方とペットショップに出かける等、個別性ある支援が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前午後に茶話会を持ち職員が意識的にテーマを出しながら利用者間で会話が進むように心がけています。お散歩や買い物など数人でお連れし共通の話題ができるようにしています		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても入院などされているときは様子を拝見に伺ったり電話で状態を聞くなどして必要であればいつでも相談していただけるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事やお茶など本人のご希望を伺い、本人の意向を重視したケアに努めている。	生活歴やライフスタイルの把握に努め、職員が決め付けることのないよう、本人本位に基づくサービスの提供を念頭に置き、職員育成を図っている。現在、思いや意向を汲み取る力の向上や、気づきの共有に結び付けるべく、日々の記録の充実に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人との会話で家族からの情報をもとに一人ひとりの生活歴や生活環境の把握に努めています		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前午後の茶話会や食事・リハビリなど一日の予定以外は本人の意向に沿った生活支援を行っています		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事例検討など個別ケア計画を検討し、本人が生き生きと生活していただける具体的は支援計画を作成し実践しています	本人、家族の参加する担当者会議での協議を行い、個別性ある介護計画を作成している。また、計画に基づく個別ケアの実践に向けて、生活支援実行表を作成し、日々の状況を共有している。今後は、アセスメントの充実と計画や実践への反映も視野に入れており、職員個々の能動的な関わりも期待される。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングでの情報共有や生活実行表の記録などを通じて本人の変化や状態を把握し、状態にあったケア・支援計画を実行している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	拒食傾向の方にはご家族と十分に話し合い外食や本人が好む個別メニューをつくり提供している。また閉じこもりがちな方にはドライブや行きつけの美容室へお誘いするなどしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や近隣の花公園など地域公共の施設に出掛けるなどして少しでも変化のある楽しい生活が送れるように心がけている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科や婦人科、内科など本人・ご家族が希望される医療機関が受診されるように必要に応じて併設医療機関の紹介状を依頼するように便宜を図っている。	入居の際に、希望するかかりつけ医について確認を行っており、家族との連携を活かしながら受診を支援している。隣接する母体医療機関との連携が密に図られており、入居の動機となる事も多い。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、連携している医療機関に入所者さまの変化について申し送りを行い夜間を含め1日の健康管理をとるようになっている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は定期的に面会に伺い、必要に応じて病院関係者との情報交換を行っている。また医療機関からの入所の場合はMSWや看護師、必要に応じてPTの方とも情報交換を行いスムーズに入所生活が送れるようにしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より定期的に状態報告をしていただき、治療の方向性や急変時の対応について書面にて確認を行っている。施設側としては家族・本人の希望があれば看取りのケアを行うようにしている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を説明し、同意を得ている。状況の変化に伴い、その都度の意向確認や、関係者での話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連医療機関院長による講習会の開催や当該消防署応急手当普及員講習などに参加し日常的な訓練をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・避難訓練を定期的に行っている。また地域の避難場所の確認や町内会などとの協力体制を築いている。	年2回、隣接する母体医療機関とともに訓練を実施し、連携を確認するようにしている。事業所には自家発電設備があり、法人としての備蓄が行われている。	職員の少ない夜間帯を想定した訓練実施や、母体法人や地域との連携強化に向けて、今後も運営推進会議等を通じた働きかけを行なう意向である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時や居室訪問時のノックなどプライバシーの配慮したかわりを行っている。またその方の誇りを尊重した寄り添いをケアの中に生かしている。	外部研修に参加し、内部での勉強会の中で、接遇の重要性やメンタルケアについて伝達されている。排泄ケアの際には特に留意し、プライバシー空間としての居室の位置付けにも配慮されている。また、飲み物の選択や嗜好の反映、介助の際の声かけ等、その都度の意向確認に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	茶話会の時は本人がメニューから選んだ飲み物を提供したり外食の機会を持ち好きな食べ物を自由に選択できるような支援をおこなっている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や趣味活動など本人が楽しいと思うことを優先させていただくように支援している。そのような支援を運営推進会議の事業所運営報告で報告し本人・ご家族の評価を受けるように取り組んでいる		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や着衣の選択をされるときはできるだけ声掛けして支援するようにしている。整髪の手伝いなど必要なケアを提供しています		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や外食など目新しい食事の提供に努めている。また毎日のメニューは入所者様の嗜好を取り入れるように努めている。おやつにもおはぎやぜんざいなど手作りおやつと一緒に作りながら提供しています。	朝・昼食、おやつ作りはホームで行い、夕食は法人厨房との連携により提供されている。法人の管理栄養士のアドバイスを受けながら、嗜好や季節感を取り入れながら献立を作成し、時には買い物の同行や下ごしらえをともに行なっている。外出時には、軽食や喫茶にて普段とは違う雰囲気を楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは職員が担当しているが法人の管理栄養士がカロリーや栄養バランスなどの管理を行っている。低栄養予防などの研修を行い個人の状態に合わせた食事が提供できるように努めている。水分食事量を毎日記録している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアには十分配慮している。歯周病のかたにはガーゼにて随時口腔清拭を行っています。毎食後の歯磨き、入れ歯洗浄など状態に合わせたケアを提供している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しはトイレで排泄できるように支援している。随時トイレへの声かけを行い失敗で本人が気落ちしないように支援しています	排泄状況やパターンの把握に努め、介護計画の中にも位置付けながら、個別の支援を行っている。時間帯に応じた個別の検討と配慮を行い、出来る限りトイレでの排泄が継続できるよう支援を行っている。勉強会の中で、おむつ外しに向けた事例検討も行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し食事メニューを検討したり、散歩や気分転換を促しスムーズな排便ができるように支援しています		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかに入浴予定は決めています。本人の希望や体調を考慮し自由な入浴ができるように努めています。入浴の時はゆっくり会話しながらリラックスしていただけるように支援している。	毎日、入浴準備を行い、週に2、3回の入浴を予定し、希望や体調、状況等に応じた柔軟な対応に努めている。湯加減や入浴時間等に配慮しながら、今後は季節感の演出も取り入れていく意向である。重度化へと移行していく中で、シャワー浴の方も多い。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医とも相談しながら、可能な限り眠剤を服用しないように心がけています。本人の睡眠パターンを尊重しています。昼間は興味のある活動を取り入れ夜間に睡眠できるように心がけています		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方薬の効果や副作用など毎回記載し主治医に情報提供しています。負担のない服薬が適切にできるように支援しています		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸や工作、散歩や外出など本人が望むものが行えるように支援しています。また、誕生会などの行事食づくりの時は下ごしらえなどできる家事は協力してもらっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良いときは本人が散歩を希望するときには自由に行っていただく。レストランに食事に行くなど普通の生活が送れるように支援しています。その際、レストランの方やお客様の協力をいただいています。	暑さや寒さを体感しながら、希望や状況に応じた外出支援を行っている。周辺の田圃のあぜ道を散歩する際には、近所の方にも声かけをしたり、買い物では支払いの見守りを行なっている。個別の希望や暮らしの継続に向けて、こだわりの醤油購入や図書館、ペットショップ、本屋等に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物に行き自分の希望するものを購入しレジでお金を支払うように協力している。自分でほしいものを選び支払うという一連の動作ができるように支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話ができるように支援しています。手紙も年賀状など本人が出せるように支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節の花を飾るなどして落ち着いた生活ができるように心がけています。入所者様の工作作品などを季節ごとに展示し楽しめるようにしています。	ゆとりある広さの共用空間は、開口部が大きくとられ、明るく、開放感がある。入居者も製作に関わった季節感あふれる作品を共同スペースに展示する等、室内空間作りにも参画してもらっている。地域に親しまれてきた炭坑節の歌詞も掲示されている。掘り炬燵のある和室スペースは、時にはボランティアの方々のステージとなる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置きゆっくりと談話したり一人で新聞など読めるようにしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いなれたものを設置し本人さんが和める居室づくりを応援しています。仏壇など自分が大切なものをいつも身近に起き安心して住める環境づくりを支援しています	吐き出し窓が設置された居室は明るく、クローゼットや洗面が備え付けられている部屋もある。また、個別の状況に応じて、畳敷きに布団を使用する等、個別の対応が行われている。自宅を整理して大切な物や思い出の品が持ち込まれていたり、プライバシー空間としての環境作りへの配慮がうかがえる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりの設置、居室にはコール浴室にはヒートショックを予防する暖房設備など安全な環境づくりには十分配慮しています。		